

第九条の会ヒロシマ



憲法を活かそう
ストップ改憲!

8.6新聞意見広告2026にご参加ください!

No War No Nukes 憲法改悪絶対反対

8.6新聞意見広告

掲載日・掲載紙 2026年8月6日(水)

朝日新聞朝刊全国版全15段

中国新聞朝刊全15段



あなたも一緒に意思表示を!

あなたも新聞に名前を載せ、子どもたちの未来のために、「ストップ憲法改悪、憲法を活かそう!」まわりの人を誘って、ぜひ! ご参加ください。

ご参加方法

- ◆ 賛同金 1口1,000円から 団体1口3,000円から
- 入金方法-振込方法3つ または 現金で(同封チラシ参照)
- ①郵便振替口座 ②ゆうちょ銀行 ③他行からゆうちょ銀行

- ◆ お名前掲載(可・不可) ペンネーム、ニックネーム大歓迎!
- 掲載締切 振り込まれる場合は、7月14日(火) まで
- 直接現金渡しの場合、7月20日(月) まで
- * 締切以後(名前は掲載できませんが)賛同金は受け付けます。

みんなで作る意見広告

主権者として
わたしはこう訴えたい!

あなたのメッセージは?

日本は「信頼を得て人々を守る」発想へ再び

1946年1月幣原喜重郎首相は、侵略・敗戦国日本が信頼を取り戻し自国の民を守るため、準備中の憲法改正草案に「戦争放棄」「軍備全廃」「交戦権放棄」条項を入れることを自ら提案した。マッカーサーは喜んで合意したと証言しているそうだ。これは憲法調査会の資料にも記録されている。

幣原は1930年、ロンドン軍縮条約を締結させるなど「国際協調こそが日本の進むべき道」として対話と信頼による外交に努めた。中国に対しても「内政不干渉」を貫き、軍部などから国内で軟弱外交と非難されても「中国と平和的な関係を築くべき」と主張し続けた。

米トランプ大統領は、この5月米中首脳会談で、中国と互恵関係を構築すると約束した。日本政府は、中国を脅威とし軍拡に走るより、一致点を見いだす作業を優先すべきだ。長きに渡り文化や政治・環境を学びあってきた隣国として話し合いのテーブルにつけないはずはない。憲法9条を持つ日本が戦争が続く世界を平和に向かわせる第一歩になると信じていたい。➔

捨てた筈の武器を ほんとうに 捨てねばならない

ホルムズ海峡への自衛隊派遣を巡り、憲法9条が最大の抑止力になることが証明された。しかし幣原喜重郎は「戦争をしていない時期も平和とは呼べない。戦争の準備期間でしかない」と9条実現の難しさを述べている。まさに今の日本だ。「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の働きで、政府は国策であった採炭労働中に水没事故で亡くなった犠牲者の骨のDNA型鑑定する方針を出し遺族のもとへ帰る可能性が出てきた。ひとたび戦争をおこせば国は重い責任を負い続けねばならない。その覚悟で戦争準備を進めているか?

「時が来た」とは決して改憲の時ではない。広島は、日清・日露戦争からアジア太平洋戦争まで「軍都広島」としての加害の罪を深く反省、謝罪し、栗原貞子さんの言葉を心に刻む時だ。捨てた筈の武器を、ほんとうに捨てねばならない。

皆さんからのメッセージ

振替用紙に書かれた皆さんのメッセージから高市政権が憲法の改悪をして戦争へ向かうのではないかと、という危機感の高まりがピンピン伝わってきます。(P13-14)

変えるべきは憲法ではなく命を守る政策です。8.6意見広告が、憲法に保障された権利を行使し、平和に生きたい、命を守れ、私の税金を戦争に使うな、憲法を守れと主権者として主張する機会になることを心より願い、ご参加・メッセージをお待ちしています。 26年5月24日(藤井)

会報129号 もくじ

- 1 8.6新聞意見広告2026にご参加を!
- 2 憲法を活かして戦争のない世界に 藤元康之
- 4 九条の碑を建てる 政木和美
- 6 排外主義を打ち破ろう 小武正教
- 8 決して無かったことにならないように... 迷いながらも伝え続ける 茂津目恵
- 9 陸自大分分屯地一敷戸弾薬庫の加害者性を問う 池田年宏
- 10 ひろしま のらフェミ通信(7) 反戦デモ 大石友美
- 11 松井広島市長の教育勅語研修を止めた市民の声! 岸直人
- 12 通称使用拡大/法制化で、誰がhappyになるのか? 恩地いづみ
- 13 「ひと」不在のまま進む中間貯蔵施設・原発誘致にNO! 清水康博
- 14 8.6新聞意見広告に賛同してくださった皆さんからのメッセージ 事務局
- 15 活動報告 16 お知らせ 後記



憲法 9 条を活かして戦争のない世界に

5 月 3 日ヒロシマ集会で飯島教授が熱弁

藤元康之（「ヒロシマ総がかり行動」事務局長）

5 月 3 日の憲法記念日に、ヒロシマ総がかり行動主催の憲法集会を県民文化センターで開催した。講演は名古屋学院大学の飯島滋明教授による「憲法 9 条を活かして戦争のない世界に」。満席となる 550 人が詰めかけた。

世界で戦争が続発し、超大国アメリカのトランプ大統領が、無法な戦闘を仕掛けるという、これまで見たことのない状況のなかで、私たちは今こそ、9 条を活かそうと訴えるが、これを SNS で発信すると反論がどつと寄せられる。

5 月 2 日に、九条の会・はつかいち、観光客でにぎわう宮島口で恒例の憲法シール投票をおこなった。昨年までは、9 条を守るか、変えるかの質問だったが、今年は「9 条守って戦争しない」「9 条変えて戦争する」と踏み込んだ質問にした。1 時間の投票結果は 9 条守る 122 票、9 条変える 3 票であり、例年以上に守る派が多かった。

その様子を SNS で発信すると、「いいね」が 4600 件来た。コメントも 1700 件来たが、悲しいかなほとんどは「バカ左翼」「老害」など罵詈雑言である。一気に来たので組織的な動きのように感じる。こういうのは、無視すればいいが、「9 条が日本にしかない状況では、軍事力を増強しておかないと日本が攻められます」という声も結構ある。

それに対する答えを、飯島さんの講演で探した。日本は攻められたのではなく、侵略した過去を持つ国である。アジアなどの戦跡調査もしている飯島さんは言う。

「真珠湾攻撃の前に日本軍はマレーシアのコタバルのイギリス軍を攻撃した。コタバルの戦争記念館には『人びとはたたかれ、殴られ、女性たちはレイプされ、無残にも殺された者もいた』と書かれている。その後、日本軍はシンガポールを占領したが、その治世は、A REGIME OF FEAR(恐怖の体制) と言われている。女性たちはレイプされ、慰安所に送られた。さらに晒し首、意味もなく銃剣で突き刺す。こういったことがシンガポールの歴史教科書でも紹介されている。オーストラリア本国を武力攻撃した国は、イギリスの特殊事例を除いて日本以外にない。ダーウィンは 60 回以上も陸軍が空爆し、シドニーも海軍が空爆した」

自民党政府は、武器輸出に踏み切り、反撃能力と称して中国の主要都市が射程に入るミサイルを配備し始めた。岩国基地をはじめ在日米軍も、中国を狙う演習を自衛隊と共同で繰り返す。このうえ、非核三原則を見直して核兵器を日本国内に配備する、そして憲法 9

条を変えたら、アジア諸国は、あの日本軍が再び攻めてくると、恐怖を感じるだろう。まだ 80 年しかたっていない。父母や祖父母を虐殺された人びとが存命なのだ。中国は日本の数倍の軍事力を持つ国になったが、台湾問題でバカな介入をしなければ、日本と戦争する理由はないではないか。それをあおっているのは、むしろ高市首相である。

怖いのは、トランプ大統領は、カネになることなら昨日の敵とも手を握る。日本に中国狙いのミサイルを爆買いさせておいて、あっさり中国と手を握ることをやりかねない。先日の首脳会談でもその兆候があった。米中融和は世界にとってはいいことだが、米国のお先棒をかついで、中国へ戦闘モードを取っている日本はどうなるのか。いま、私たちが声を大にして世界に訴えることは「日本国民は、政府に侵略戦争はさせません。その証が憲法 9 条です」。これこそが日本の安全保障だ。飯島氏は言う。

「先の侵略戦争の結果、近隣諸国の民衆は 2000 万人から 3000 万人亡くなった。日本人も 300 万人亡くなった。それを命じた権力者はどうだったか。国民や兵士に対しては国のために死ねと言いながら、自分たちは死なずに逃げてしまう。沖縄戦は 45 年 3 月から始まるが、その前年の 10 月から、天皇や政府の人たちは東京から長野県に逃げる準備をしていた。沖縄の人たちに対しては草木一本に至るまで戦え。その結果、20 万人ほどの犠牲者が出た。こういった、無責任な戦争をさせないために、憲法の前文では、日本国民は、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意している。主権者である私たち国民は政府に戦争させません。これが憲法の平和主義の考え方です。これを変えてしまっていないでしょうか」

憲法集会の主催団体の正式名称は「戦争させない・9 条壊すな！ヒロシマ総がかり行動」。県内の市民運動団体、労働組合などが一致点で共同行動を行う「場」である。5 月 3 日と 11 月 3 日の憲法集会は定例化して相当数の結集があり、「3 の日街宣」も継続している。

安倍首相時代の 2015 年 9 月 13 日に、中央公園で 7000 人が集まり「NO WAR NO ABE」の人文字を描いて全国にアピール。これがきっかけになってヒロシマ総がかりは生まれた。改憲勢力が衆議院で多数を握った今、再び大規模集会を開こうという声が寄せられている。また、SNS を活用した若者たちの呼びかけで、多くの人がペンライトを持って集う新しい波が起きている。ぜひ連帯していきたい。

九条の碑を建てる

政木和美

数年前、日本全国に立つ憲法九条の碑は 20 数基でした。余りの少なさに衝撃を受け私も作りたいと思いました。日本全国に九条の碑が立ち人々が日常的に目にするのができたらどんなに素敵でしょう。

9 条の碑を

碑の上の御影石の折鶴は石材屋さんが苦労して作ってくれました。戦争とは真逆の佐々木禎子さんの「生きたい」という願いが込められています。碑の中には地球いっぱい九条が広がってほしいと丸い黒御影石いっぱい九条全文が広がっています。その下のアオギリの絵はアオギリの絵本の原画を基に掘ってもらいました。その絵を描いた友人は亡くなりましたがきっと喜んでくれていると思います。被爆しながら新しい芽を出し生き抜いたアオギリは私たちの希望です。



こうして父が残してくれた土地・安佐北区飯室に友人たちと作ったガーデンの中に九条の碑が建ちました。

4月5日 ミモザの花が咲く時季、お披露目会を開催しました。憲法九条を守りたいという願いを持った友人・知人に声を掛け、友人が友人を呼び、目標の 20 名をはるかに超える 60 名の参加者による盛大な会となりました。それほど日本を巡る情勢に危機感を持たれているのだと思いました。

なぜ、9 条の碑を建てたか？

「九条の碑を建てたい」という動機の一つに父の存在があります。

父・政木五郎は、1920 年飯室に生まれ高等小学校を卒業して呉の海軍工廠に採用されました。そこで父は有能な無線技士として認められ、前途洋洋の毎日を送っていました。戦争にも行きましたが、中国の蘇州辺りを衛生兵として従軍し、激しい戦闘を体験することなく帰っているようです。父にとって、戦争が間違っているとは考えたこともなかったと思います。

戦後、戦争の実相が次々と明らかになっていく中で父の生き方が変わりました。

父は三菱重工業広島精機に勤めていましたが、そこで会社は組合つぶしにかかりました。成績に差をつけ

給料に差をつけ。父たちの闘いによって臨時工から本工になれた仲間たちも殆ど第二組合に行ってしまいましたが、父は最後まで残り会社と向き合いました。

父は町会議員にもならせてもらいましたが主に住民運動に力を注ぎました。戦争中、国民にうそをつき続けだまし続けた権力に対して根強い不信感があったのだと思います。

ある時、食事中父がボソッと言いました。「戦争で戦って死んだ兵隊より、飢えて死んだ兵隊の方が多かったんじゃない。」 私は喉がつまりそうでした。どうしてこんな時にこんなことを言うんだらう。

私が 8 月 6 日の集会に参加すると、85 歳になる父が突然現われました。びっくりしました。こんな暑い時にこんな年寄りはどうして？

父が 92 歳の時、脳梗塞で倒れました。もう話すことも歩くこともできなくなった父を介護しながらやっと父の気持ちが分かりました。

一あの時父は戦争で飢えて死んだ兵隊がたくさんいたのに自分はぬくぬくとお腹一杯食べていることがつらかったんだ あの時父は自分の闘いの終わりのけじめをつけたんだ。たった一人で

戦争は、戦いが終わってもずっと人を苦しめます。日本で中国でアジア各地で、むごたらしく人の命が奪われました。二度と戦争はしないと憲法第九条が作られました。九条は世界の人にとっても信頼と希望の金字塔です。スペインのサンチェス首相の言葉です。

『戦争は 一握りの人たちに得をもたらすが

平和は すべての人を幸せにする。』

九条を守り 戦争に NO を!!



4月5日蒼空の下、ミモザの花のかたわらでお披露目会（写真大道さん）

排外主義を打ち破ろう 一草の根交流とファクトチェック

小武正教 (ミャンマー(ビルマ)市民の訴えを聞く会)

「排外主義は票になる」という日本社会

2021年2月1日のミャンマー軍のクーデターに対し、民主化を求める市民の声に連帯して声をあげ、「ミャンマー(ビルマ)市民の訴えを聞く会」という名で活動をはじめ5年以上の歳月がたちました。この間、日本社会において、ミャンマー人をはじめ、在留外国人を巡る状況は目に見えて悪くなっているといわざるをえません。「日本人ファースト」という声がにわかに大きなものとなり、昨年参議院選挙では、そのスローガンを掲げる参政党が議席を伸ばし、今年衆議院選挙では「排外主義は票になる」とばかりに、与党の自民党・維新の会など保守政党は「安心安全な社会、そのための外国人の規制強化」という名の「排外主義」を広めていきました。そしてその事をマスメディアは、事実を確かめて伝えるので無く、ただ垂れ流していたのではないのでしょうか。

もちろん日本政府の「排外主義」政策は今始まったことではありません。戦前のアジアの国々に対して日本が取ってきた植民地政策、その中で作り出してきた蔑視の意識を反省・克服できずにおり、今その延長線上にあるとも言えましょう。

この4月にあった学習会で在日朝鮮人の二世の女性が、後でスピーチしたアウンチーミンさんの話を聞いて、「私たちがたどってきた道をあなたたちが今だどりはじめている」と言われた言葉が印象的でした。

誰がヘイトの対象となっているのか

「ウソも100回いえば本当になる」ということを、今のSNSが証明しているように思います。「昔、大本営発表、今はSNS」でしょうか。

最近大きく取り上げられた埼玉県川口市のクルド人へのヘイトスピーチがなぜ起きたのか、そのことが現在の排外主義の様子をよく表していると思います。



川口市の人口は60万人、その内在留外国人は52,000人あまり、そのなかでクルド人は1400人たらず。圧倒的に中国人が半数以上、なのにターゲットになったのはクルド人です。

発端は2023年の入管法改定で、従来「難民申請中は原則送還禁止」としていたのを、3回目以降の申請者については審査中でも送還を可能とする内容です。国を持たない世界最大の民族と言われるクルド人。日本で難民認定され難いトルコ国籍のクルド人は複数回申請者が多く、反対の声をあげ新聞記事になりました。

その後、全国からのネガティブなSNSの発信、そして実際にクルドの人たちに身の危険を感じる事態がおきました。しかし、今年2月の川口市長選では、「川口を多文化共生の地にしたい」と訴えた岡村ゆりこさんが当選しました。それは、排外主義に対抗する地元の動きがあり、ヘイト一色に染まらない地元の営みがあったからでしょう。

次のターゲットはミャンマー人になりはしないか

今の「外国人への排外主義」の状況を、「本当に怖い」と在留外国人はみんな強く感じています。それは今年4月にあった二つの講演会で、ミャンマー民主化支援の活動をしているアウンチーミンさんの話から強く思いました。

アウンチーミンさんとの出会いは2022年春。2021年2月1日、ミャンマー軍がクーデターを起こした後、私たちは毎月1日、「1の日行動」として「ミャンマーをわすれないで」と活動する中、彼が声をかけてきたのがはじまりです。そして一緒に写真展や映画会、そして翌年には第1回の「水かけまつり」を開催するまでになりました。彼はHMC(HiroshimaMyanmarCommunity)という団体をつくり、今年の第4回「水かけまつり」は、初めてHMCだけの主催となりました。

この間、何度となくHMCは広島の本通りでデモ行進を行って来ました。その内容は日本政府に対して、「ミャンマー軍政に対する制裁、NUG(国民統一政府)の承認。ミャンマー国内難民への支援。ミャンマー国内情勢を考慮した「緊急避難措置(特定活動)の延長」などと同時に、「日本のミャンマーに対するODA(政府開発援助)の停止、そして政府と深い関係のある日本ミャンマー協会と軍との密接な関係への抗議」など、日本政府に対しての批判も含まれています。



↑ 小武さん ↑ アウンチーミンさん

2023年G7サミットが広島で行われた時、約200人ばかりのミャンマー人が全国から広島に集まりデモをしました。その時、東京で長く日本に住むミャンマー人は「今日本政府に対して 私たちの思いは、期待から失望へそして怒りに変わりつつある」と叫びました。

外国人に選ばれる日本社会になるには

アウンチーミンさんは2年程前、「小武さん、私は広島でお店をだしたいんです」と将来の夢を話してくれたことがあります。民主化されたミャンマーに帰って仕事をするのが第一の願いでしょうが、直ぐには叶いそうにはありません。昨年まで在留外国人が店を出すには、「資本金500万円」が通帳にあることが条件でした。それを日本政府は一挙に「3000万円」としたのです。もちろん日本人にはその制約はありません。すでにオープンしている店も2028年までに「3000万円」の資本金があることを示せないときは店を閉めなければならないことにしたのです。昨年広島駅の近くにオープンしたミャンマー料理店「Chill Burma」が心配です。

ほかにも「ビザの不携帯でビザの取り直し」、「就労ビザを取るのに日本語検定の条件引き上げ」「永住許可申請の『手数料』の法定上限額が1万円から30万円へ引き上げ」等々、まさに出て行けと言わんばかりの日本政府の政策が打ち出されています。

クルド人ヘイトがなぜ同じ埼玉県でも川口市の3倍近いクルド人が住んでいる川崎市で起きなかったのか。それは川崎市には公共の場所でのヘイトスピーチを禁止し、違反を繰り返す個人・団体に対し、刑事罰付き条例が出来たからと言われています。公的機関のすべきことは「排外主義」を取り締まる政策だということを教えてください。そして私たち一人ひとり、常に流れてくる情報を偽情報

ではないかと疑って、ファクトチェックをすることが大切です。「外国人がいるから日本人の賃金が上がらない」「外国人が日本人の職場をうばっている」など、チョット調べればウソの情報だということはすぐ解ります。

私の出会ったミャンマー人は、みんな夢と希望をもって日本にやってきて懸命に働いています。その人たちがこのままでは失望し、日本を去って行ってしまわないかと心配しています。

つい最近、「小武さん、日本でなくイギリスの大学で博士号をとることも考えています」といったアウンチーミンさん。私が彼が講演した時、紙のペーパーで、「日本社会には、異なる文化を受け入れる訓練ができていないことについて一言アドバイスをお願いします」という質問に、彼はズバリ一言、「それは勉強をしないとイケません」と。

草の根の交流が学びの場

昔からお互いを知る為には「同食同火（一緒に食事をし、一緒にすぐす）」といわれます。私はミャンマーの若者が僧侶の私からみてとても宗教的なことに驚いています。私は今までミャンマー人に「小武さん 寄附したいですか」と何回となく問われました。普通日本人が言うのは「寄附をお願い出来ませんか」です。「困っている人を助けるのは当たり前」という気持ちから出て来た言葉なのでしょう。

今年も5月10日に「第4回水かけまつり in 広島」をゲートパークで行い、ミャンマーの2,300人だけでなく、日本の市民も500人の参加がありました。

イベントを企画・運営そして交流すれば、お互い違いも良さも露わになってきます。「違いを認め、学び遇える場を大切にすること」こそが、本当の豊かな社会に繋がっていくことになると思います。

決して無かったことにならないように… 迷いながらも伝え続ける

茂津目恵（広島市被爆体験伝承者）

初めまして。私は広島市被爆体験伝承者の茂津目恵（もづめめぐみ）と申します。朴壽南監督・朴麻衣監督のドキュメンタリー映画「よみがえる声」を通じてご縁をいただきましたこと感謝しております。

私は今年 94 歳を迎える朴南珠（パク・ナムジュ）さんと、故李鍾根（イ・ジョンゲン）さんの被爆体験をお伝えしています。被爆体験伝承者とは、修学旅行生や広島平和記念資料館にご来館くださったお客様に、被爆者の方から直接お聴きした被爆体験や平和への思いを、被爆者の方に代わってお伝えしています。現在、被爆体験伝承者及び家族伝承者は 298 名（5 月 1 日現在）活動しています。現在、家族の被爆体験を伝える「家族伝承者」が次々と誕生しています。家族伝承者は「家族や親戚」ですが、被爆体験伝承者はあくまでも“他人”です。“他人”という言葉は時に冷たくも寂しくも感じますが、“他人”だからこそ配慮を持ってお聴きできることもあると感じています。被爆者の方との信頼関係を少しずつ築き、心を込めて伝えたいと思っています。私自身、広島にご縁を頂いて約 20 年。被爆体験を初めてお聞きしたのがほんの 9 年前のこと。外国人被爆者の存在を知ったのは朴南珠さんの被爆体験を新聞記事で読んだ時（2015 年 8 月）のことでした。

青森県八戸市出身の私は高校の修学旅行で広島に立ち寄り資料館に行っています。しかし、記憶に残っているのは「被爆再現人形」と言われるその姿でした。「被爆再現人形」と聞くと被爆者の方にとっては「あんなものではなかった…」という思いがとおりでしょうが、あの日を知らない私は「あんなもの…」でさえ想像ができないのです。被爆者の方が受けてきた辛いまなざしを、人形たちも同じように毎日毎日受けてきたと思います。展示最終日となった 2017 年 4 月 25 日。人形にも心や魂が宿っていますから「お疲れさま」を伝えるに資料館に行ったことを思い出します。

私が伝承講話後に受ける質問で最も多いのが「なぜ在日韓国人被爆者のことを伝えようと思ったのですか？」というものです。これはある意味自然な質問ですが、私にとっては時間が限られた中でお答えするにはとても難しいのです。それでも子どもたちには「決してなかったことにしてはいけないと思ったこと。そして被爆者の方との出会いや縁です。」とお伝えしています。人として好きになり、その方の人生に“原爆”というとても辛い出来事があったけれども、不安を抱えながら必死に生きてこられた。その生き方を知ることには後を生きる私たちの励みにもなります。被爆者の方にとっ

て“原爆がもたらしたもの”が人生の全てではありません。楽しかった家族との記憶、友人たちとの思い出、空腹の辛さ、支えてくれたもの、被爆者の方の生き方や人柄も含めて伝承講話から少しでも伝わったら嬉しいです。



朴南珠さんと（2026 年 3 月 13 日）
朴さんのご自宅にて



李鍾根さんと（2021 年 8 月 5 日）
韓国人原爆犠牲者慰霊祭にて
撮影：宮崎園子さん

在日韓国人被爆者の伝承をするという事は、自分が生まれた国の歴史について向き合わざるを得ないのですが、「あの日、ヒロシマそしてナガサキのきのこ雲の下になぜ外国の方がいたのか？」学びを続ける中で思ったことは「過去の歴史を学ぶことは、人の痛みを知ることであり、人にやさしくなれる事である。」という事でした。李鍾根さんは「過去の戦争はあなたたちに全く責任はないよ。でも、核と戦争の無い未来を築いていく責任はあるよ」と子どもたちにお話していました。そして、李鍾根さん、朴南珠さん共に共通して伝えていることが二つありました。それは「朝鮮半島出身の被爆者に帰る家は日本にも朝鮮半島にも無かった。」これは植民地支配が被爆前も被爆後もそして今に至るまで及ぼした痛みの深さを感じさせるものです。もう一つは「人には優しくしようね。」という事でした。「被爆と在日」という二重の差別に苦しむ中でも触れた人の優しさからお二人がたどり着いた大切なことなのだと思います。被爆者の 1 割にあたる最も多くの犠牲者となった朝鮮半島出身の方々の被爆体験を日本人として伝えることは、「加害の歴史」を伝えることになるのだという重みや大切さも感じながらこれからも伝え続けたいと思います。

被爆から 81 年目の夏を迎えます。伝承講話の最後に李鍾根さんの言葉を借りて私はこうお伝えしています。「過去に対する責任はなくとも、過去の歴史を学び、痛みを知る責任」はあると。

戦車訓練中の事故で亡くなった3隊員と重傷者は、軍拡「平和憲法汚染」被害者だ

陸自大分分屯地—敷戸弾薬庫の加害者性を問う

3名の自衛隊員の死を悼む

2026年4月21日、大分県の日出生台演習場で「戦車」砲弾の車内爆発事故により、3名の尊い命が失われ、1名が重傷を負うという極めて凄惨な事故が起きました。かけがえのない命が失われたことに深い悲しみを禁じ得ません。亡くなられた隊員の方々に謹んで哀悼の意を捧げ、ご遺族に心よりお悔やみを申し上げます。また、負傷された隊員の一刻も早い回復を祈念いたします。

「戦争止めよう！沖繩・西日本ネットワーク」は4月24日付で声明『「悲劇を繰り返すな」日出生台演習場での3名の自衛隊員の死を悼みすべての人の安全と尊厳のため弾薬庫建設と軍拡に反対する』を發出し、同27日に「大分敷戸ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会（敷戸・市民の会）」、「湯布院ミサイル問題ネット」、「ローカルネット大分・日出生台」の皆さんにも呼び掛け、共同記者会見を行いました。

戦争は命の軽視なしには成り立たない

深刻な隊員不足にもかかわらず、装備の重層化や高度化が進んでいます。事故を起こした「10式戦車」の製造元は三菱重工。2010年に運用が開始された陸自の「最新鋭戦車」で、1分間に6～10発の連射が可能です。砲弾（＝対戦車りゅう弾）は、発射後の初速が7～8km/秒、2km先の「戦車」装甲を貫通するほどの破壊力を持ちます。砲弾暴発の午前8時39分頃の瞬間、「戦車」内では、マッハ20以上（音速の20倍以上。大分から大阪までわずか1分ほどで到達する）で、3,000度の熱を伴う想像を絶するエネルギーが放出されたはず。国が進める「抑止力」強化のもと、私たちの命につながる自衛隊員が命を落とした事故のあった午後、荒井陸幕長は記者会見の冒頭で「迷惑をおかけして申し訳ない」と述べました。隊員たちの死傷事故は、組織にとって「迷惑」だということでしょうか。すでに隊員の命は「鴻毛」のように扱われています。怒りを禁じえません。



池田年宏（大分敷戸ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会、戦争止めよう！沖繩・西日本ネットワーク 両運営委員）

「次なる戦争」に向かう弾薬庫周辺地域・生活道路

隊員の命を奪ったあの砲弾が、市民生活と地続きの陸上自衛隊大分分屯地（敷戸弾薬庫）から運ばれた可能性も否定できません。陸上自衛隊大分分屯地（敷戸弾薬庫）は、日出生台演習場で使われる弾薬の多くを供給しており、弾薬の運搬は一般道を使います。今回の日出生台演習場での事故を受け、不安はかつてないほどに大きくなっています。訓練においてでさえ、このような事故が起きるのです。「次なる戦争」に向かいつつある今、周辺住民は常に甚大な危険と隣り合わせの生活を強いられているのだとあらためて自覚することになりました。

軍事施設の加害者性を問い、あらためて弾薬庫反対を訴える

「敷戸・市民の会」は、市内の各市民運動団体、湯布院や沖・西ネットの諸団体と連携し、懸命に運動を展開しています。地域でのポスティング、毎月3回のスタンディング、そして加害の歴史に焦点を当て戦争の実相に学ぶ集会等を開催しながら、対話を基調とする平和外交こそが戦争回避につながることを訴え続けています。敷戸弾薬庫では、長射程ミサイル用の大型弾薬庫建設が始まっていますが、第1棟目の工期が昨年12月末→今年3月末→5月末→さらに9月末までと、「物資の調達の遅れ」を理由に次々と延期が表明されています。5月23日、現地公民館で「平和な未来にミサイルいらなしきど市民のつどい」を開催しました。軍拡によって第9条をはじめとする平和憲法が汚染され、平穏な生活が破壊されつつあります。私たちは弾薬庫の持つ「加害者性」を問い、自らとすべての人の安全と尊厳を守るためにまずは地域でつながり合い、弾薬庫建設とミサイル配備に断固として反対の意志を表明していきます。



沖西ネットによる「声明」

歌：「ミサイルはいりません
～非戦の叡智を～」



陸上自衛隊大分分屯地（通称敷戸弾薬庫）。中央下の森の中に見える白い部分が建設中2棟の大型弾薬庫。入口から上部の住宅密集地までわずか400m。保安距離不足の懸念と山火事などの事故の危険性に不安。日出生台演習場への弾薬の供給地。

事故後の日出生台演習場の様子。「戦車」車両の外観を見る限り目立った損傷はない。隊員たちが乗車する内部に向けて膨大なエネルギーが放出されたと思われる。【撮影：高見剛（湯布院在住）】

大石友美 (ジェンダーを考えるひろしま県民有志)



4月8日(水)
19:00~20:00
国会前行動に
連帯して
NO WAR!
憲法変えるな!
ウォンツ・青山前



写真提供 久野成章さん

J-POP の音楽が流れる中、マイクからの「戦争反対」「NO WAR」「誰も殺すな」「歴史から学べ」の声に合わせて聞こえるタンバリンの音、キラキラ光る色とりどりのペンライト、文字が流れるミニサイズ電光掲示板、反戦メッセージが書かれたカラフルなプラカード。「そのイラストかわいい」「推しのペンライトですか?」「寒くないですか?」「足疲れてきましたね」など初めて会う人同士でも声を掛け合って、小さな子どもさんからきっと戦争が私よりももっと身近にあった世代まで、ちょっとだけおしくらまんじゅう状態でぎゅうぎゅうになって立ちました。

4月8日(水)の肌寒い夜に広島の中で行われた反戦デモに 302 名の方が参加されたと主催者さんより発表がありました。赤旗の報道によると、その日は 47 都道府県 163 カ所で開催されたそうです。広島では平和を維持したいと願う方々が日常的にデモを行なっています。今回のデモでは、よくお見かけするかっていいベテラン勢がそれぞれ光るペンライトやカラフルなプラカードを手を持って凛とした姿で立たれていて、新しい方法をすぐに取り入れる柔軟さ、フットワークの軽さに胸が熱くなりました。「そんなやり方じゃダメだ」と自分より若い世代を否定する事なく「それいいね、一緒にやるよ」と寄り添って協力してくれる、私もそんな人になりたいです。

昨年、抗議デモで戒厳令を止めた韓国の方々が SNS で「デモに行く時にこれあったら良いよ」とフラッグを持つ時用に滑り止め付きハーフグローブなどおすすめの持ち物を教えてください、「必ず何か楽しめる要素を作っておく」「絶対に無理はしない」など具体的なアドバイスに加えて、連携の表明や応援のメッセージをたくさん見ました。韓国の方々優しいです。本当にありがとうございます。

「戦争反対」と当たり前の事を言うとバッシングを受ける日が来るなんて。日本はさんざん加害をして多くの人を苦しめて、謝罪をするにおいても誠実さに欠け、それぞれの国で追悼の日に政府関係者はろくに参加せず、メッセージさえも送らずにいるのに、加害について深く教育せずいます。同じあやまちを繰り返すなんて絶対にあってははいけません。

また、前回3月25日(水)の寒い雨の夜に行われたデモでは、推しのペンライトとうさぎのイラストが描かれたプラカードを持った女性が隣に立ち「初めてのデモで緊張しています。いてもたってもいられなくて仕事終わりにバスに乗って来ました」と話してくれました。「初めてのデモ」という言葉で、祖母が生前「職場の賃上げデモ」に2回参加した話を思い出しました。「参加したかった訳ではなくて、職場の人がほぼ全員参加したから自分も参加できた。経営者に嫌われて仕事がなくなったらどうしようか不安で怖かった。交渉の結果みんなの賃金は上がった。」と話していました。より多くの給料を自分達の勇気ある行動で勝ち取った祖母と仕事仲間に痺れました。「存在を認識してもらう為に立っている」のであって、その場にただ頭数として存在しているだけでよくて、特に何かする必要はないと頭ではわかっているけど、日常生活で人前で話す事や何かをする機会がそもそもないので目立つ事自体が怖くて勇気がいります。

危機感を感じているのにデモに「参加できなかった」「何もできてない」と思う方が多くいらっしゃると思います。広島県民有志のメンバーも行きたかったけど行けなかったと話してくれました。遠方に住んでいて、交通費と宿泊費をデモのみに使えるほど金銭的に余裕は

なく、仕事を休めるわけでもないのに、国会前デモの様子を見て私も同じように思っています。私は県外から広島への移住者なので、匿名性が高く、デモ参加中に「べつに親しくはない同級生」「特に仲良くはない親戚」に遭遇する事はありません。また、デモの開催場所が職場のすぐ側の為、仕事帰りに体調が良い日だけ参加しています。戦い方の方法として「デモへの参加」の他にも「内閣府へ意見を送る」「地元の議員へ伝える」「SNSで発信する」最も難しいかもしれないのですが「身近な人と話す」など色々あると思います。決して無理はせず、同じ思いの方々と模索しつつ連携していきたいです。

4月19日(日) 13:00~14:00



NO WAR
憲法改悪絶対反対
戦争したがる総理はいらない



NO WAR ! 憲法変えるな! ウォンツ・青山前

松井広島市長の教育勅語研修を止めた市民の声！

岸 直人（教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま）

私は「松井市長はなぜ教育勅語を民主主義だと思いつ込んで新規採用職員研修に使ったのだろう」という疑問が消えない。教育勅語を信奉する高市早苗首相や、参政党などに近い思想の持ち主ではないかとも思う。

また「自分の考えは変わらない」と言いつつ、2026年3月27日の定例記者会見で「2012年以来14年間に渡って行ってきた講話を今年（2026年度）から実施しない」と表明したのはなぜだろうという疑問も消えない。来年の5選となる市長選挙に向けて評判の悪い教育勅語問題を切り離そうとしたのだろうと推測する。が、3年間続いた市民からの厳しい批判が松井市長に教育勅語引用講話を止めさせた、ということは確かに言える。

2023年12月の報道で、核廃絶と国際平和文化都市を謳う広島市長が、教育勅語を引用した職員研修を12年間も行い、その間マスコミも内部の職員からも批判が無かったことを知り愕然とした。

被爆者、弁護士、ジャーナリスト、宗教者、教職員、労働者などを含む多くの団体や多くの市民が、教育勅語は「衆参両議院で排除失効決議され日本国憲法と教育基本法に矛盾する」「象徴天皇制、政教分離、憲法尊重擁護義務と矛盾する」「核廃絶をめざす平和記念都市の市長による『教育勅語』の肯定は不適切」と厳しく市長を批判した。

当会は2020年から2023年までの市長の研修講話録画を開示請求により入手した。2020年度「教育勅語には今でも大事にすべき様々な教えが入っている」2021年度「教育勅語は、今でも通用する民主主義の基本的な概念を述べている」2022年度「英語に直すとしても民主主義的でいいこと言っている」2023年度「教育勅語の英訳には民主主義の先端をいく民主主義の素晴らしいことが書いてある。」等を確認した。

2024年度松井市長は市民の批判を受けて「民主主義」とは言わなくなったが、まだ「大事で意味がある」と教育勅語を肯定したので、当会は教育勅語で民主主義を否定する教育が行われていたことを検証することにした。当時の文部省の教師用解説書である『勅語衍義』は、例えば「夫婦相和し」は「国の安定のために家が不和であってはいけない」「夫は妻を可愛がって妻の歡心を得、妻は夫の意思に反してはいけない」などと書き、最終的には「一旦緩急あれば義勇公に奉じ、以て天壤無窮の皇運を扶翼すべし」と「天皇の為に命を捨てよ

と天皇制国家主義を強制する内容が教えられていたことを明らかにして、松井市長に「教育勅語は民主主義ではない」ことを質問状で追及した。

2025年には「教育勅語を引用した職員研修をしないことを求める要請書」を賛同者597名、賛同団体70団体の署名とともに市長に提出した。この年の研修会では「教育勅語には大事なことが書いてあるという意見を受け止める」と教育勅語を肯定した後、「憲法と原爆のない真の平和をめざす広島は軌を一にする」と述べ、憲法を守り核廃絶を進めるべき広島市長が、戦争推進の元凶であった教育勅語を抱きしめて放そうとしない自己矛盾した姿を市民に見せることになったのである。

同年9月24日に当会は広島市議会にオンライン署名22,838筆と共に「請願」を提出し、「教育勅語引用研修をしないことを求めるハガキやメールを送ってください」との呼びかけを全国に拡散した。広島市によると、2026年3月27日の記者会見までに広島市内外から呼びかけに賛同した231通のハガキやメールが連日のように市長に届いていた。

私たちは、松井市長が遅ればせながらも教育勅語引用研修という違憲行為をやめたことは歓迎する。が、市政記者会見で、自分が教育勅語を止めるのはマスコミや市民が「政争の具」にし、「揚げ足を取る」からだ、マスコミや市民を敵視する発言をした。このような市長の姿勢は、市民による地方自治への参加、つまり主権者による民主主義の実践そのものを否定するものであり、根本的に批判されるべきものである。今後、松井市長には主権者である市民の声を受け止め、真摯に対応する市政を運営されることを望みたい。



2026年4月17日研修センター長に抗議文を提出

恩地いづみ（別姓訴訟を支える会）

厳格な本人確認が必要な通称使用？

法制化見送りは当然

自民・維新の連立合意によって急浮上し、「今国会への提出」とまで言われていた旧姓の通称使用を法制化する法案ですが、提出は見送られる方向だと報じられました。

首相は第2次内閣発足時、「旧姓の単記使用を可能とするための基盤整備を検討するよう指示」しました。それなら、「通称使用法制化」とは、旧姓を通称として単独で使用できるようにするものなのかと思いきや、3月には「マイナンバーカードなど厳格な本人確認に用いられる書類については、旧姓と戸籍姓の併記を求める検討が必要」と答弁しています。つまり厳格な本人確認が不要な場面では単記を認める一方、重要な場面では併記を求めるということになります。

現状と乖離

それでは現状とどれだけ違うのでしょうか。詳細については「検討中」が繰り返されており、秋の臨時国会に法案が提出されるのかも不透明です。

現在の婚姻制度では、婚姻届の提出は夫婦の一方が姓を失うことを意味します。もちろん、喜んで改姓し、同姓になるケースもあります。

しかしその一方で、不本意ながら改姓せざるを得なかった人、改姓を避けるために事実婚を選んでいる人、さらにはそれが原因で破局に至った人も少なくありません。姓を譲ってまたは諦めて改姓を受け入れて結婚した人、改姓後に通称使用をしている人、あるいは選択的夫婦別姓の実現を待ちながら事実婚を続けている人たちの多くが求めているのは、「結婚しても改姓しなくてよい選択肢」や、「結婚前からの姓を本名としてそのまま使えること」です。

通称使用拡大は不便を減らすだけ？

そもそも通称使用は、結婚改姓後も「せめて通称としてでも改姓前の姓を使いたい」と願った人たちが、長年かけて切り拓いてきた苦肉の策でした。

一方で、高市首相たちは「改姓による不便を解消する」として通称使用を提示してきました。しかしこれは、「改姓しなくても結婚できるようにする」という本来の課題を、「改姓後の不便を減らす」という方向

へすり替え、選択的夫婦別姓を阻止するためのツールとして利用してきたのです。実際、選択的夫婦別姓を求める世論が高まるたびに、「通称使用拡大」が声高に語られてきました。

そして、実際に通称使用の限界や不便を十分に知らない人たちに、「通称使用で十分では」「別姓はもう実現しているようなものでは」という幻想を与えてきた側面もあります。

通称使用拡大の限界を認めるべき

旧姓を使い続けたいという切実な思いと、「選択的夫婦別姓の阻止ツール」としての役割が重なった結果、現在では旧姓を使える職場も増え、一部では旧姓で銀行口座を持てるようにもなりました。「旧姓で仕事をしています。不便はありません」と語る人もいます。

しかし、法制化されたとしても完全な単記使用ができないのであれば、不便が多少軽減されるだけで、根本的な解決にはなりません。何より、それは依然として「改姓を前提とした制度」であり、「改姓しない」というニーズには応えていないのです。

「これまで20年間、通称使用拡大に努めてきた。今後さらに進める」と言われます。ですが、20年かけても不便を解消できなかったのであれば、通称使用拡大だけでは限界があることを、そろそろ認めるべきではないでしょうか。

法制化によって通称使用の範囲が多少広がったとしても、新たに happy になれるのは、選択的夫婦別姓を待っている人たちのごく一部と、通称法制化で選択的夫婦別姓の議論を終わらせられると考える人たちだけでしょう。選択的夫婦別姓を阻止するためのツールとして使われる「通称使用拡大／法制化」にごまかされるのは終わりにするべきです。



左が恩地さん、原告と心強い弁護士さん、支援する札幌の人たち

山口県上関町発！ 「ひと」不在のまま進む中間貯蔵施設・原発誘致に NO ！

持続可能なまちづくりに逆行



浜は原発予定地の上関田ノ浦、3.5キロ向こうに祝島

上関町長は住民の意思を確認せず

2023年8月、山口県熊毛郡上関町に地域振興策として、中国電力から使用済核燃料の中間貯蔵施設の立地可能性調査が提案された。上関町長は住民の意思を確認せず、わずか16日間で受け入れを決めた。上関町はこれまで40年以上、原子力発電所建設計画により住民が賛成・反対で分断され、親戚・友人の仲をも引き裂かれたと聞く。原発問題をめぐって苦しい思いをし続けてきた町の姿を中国電力も知っているはずだ。それにも関わらず、また新たな原子力施設を提案してきた中国電力、それを住民の意見をしっかりと聞くこともせずすぐに受け入れた町長の姿勢はまったく理解ができない。私が反対した最初の理由はそこだ。

私が反対する理由2つ

他にも理由はいくつもあるが主には次の2点だ。

- ・国の掲げる核燃料サイクルの破綻。六ヶ所再処理工場は完成予定から30年近く経過しているが、未だに完成していない。永久貯蔵を懸念。
- ・上関町はこの40年以上、原子力による交付金を受け取ってきたが、人口減少や過疎高齢化に歯止めをかけることはできていない。また交付金を活用して建設した施設の維持管理費に追われ始めている。まだ原発も中間貯蔵施設も建設されていないのにこの状況である。財政難を理由に受け入れを進めようとするが、使用用途の限られる原子力財源を上手く活用しまちを活性化していくことは難しく、これ以上の依存は避けなければ今以上の財政難に陥る可能性は十分に考えられる。

2025年8月、中国電力は調査結果を公表し「立地は可能である」とした。現在その調査結果をもとに

清水康博（上関原発を建てさせない祝島島民の会事務局長
上関町議会議員）

事業計画が作られている。事業計画が示されれば、具体的な場所・規模・搬入経路等も分かるであろう。町長は建設受け入れ検討には時間をかけ、住民説明会も開き議論を尽くすと言っている。住民に対して、誠心誠意しっかりと説明をしていただき、住民の声にも耳を傾けてほしい。町長は常々、「持続可能なまちづくり」という言葉を口にする。



私はまちづくりに一番大切なのは「ひと」とであると考える。町民同士、いがみ合うことなく同じ方向を向いて進んでいけるまちを目指すべきであり、それは中間貯蔵施設・原発誘致では実現不可能である。

（東京・生活者ネットワーク通信 2026年5月8日号より転載）

中国新聞 26年3月6日祝島裁判判決

(第三種郵便物認可)

上関原発調査妨害禁止命令

予定地海上ボーリング 祝島島民の会に

26/3/6
山口県上関町に原子力発電所建設を計画する中国電力が、地元住民団体「上関原発を建てさせない祝島島民の会」に予定地の海上ボーリング調査を止めないよう求めた訴訟の判決が5日、山口地裁岩国支部であった。小川裁判長は中電側の公有水面埋立権に基づく妨害予防請求権を認め、島民の会へ一切の妨害行為を禁じる判決を言い渡した。（加田智之）

小川裁判長は判決理由で、妨害予防請求ができる。調査は公有水面で埋立認定。過去の調査の際に必要で、同埋立権に基づいてきたことなどを「島民の会の組織的な行動」と断定し、今後の調査でも同様の行為で妨害する恐れがあるとした。島民の会側は、調査は中電が同町で検討する使用済み核燃料の中間貯蔵施設の建設に向けたデータ取得が目的と主張していた。小川裁判長は、調査の目的を「原発建設に必要な地質データを取得するため」と判断し、請求

が権利の乱用とする島民の会側の主張を退けた。島民の会側は併請団体を「公有水面埋立権を不当に拡大解釈している」と批判、控訴する意向を示した。中電は「海上ボーリング調査の実施に向けて引き続き取り組む」とコメントした。中電は過去に埋立てる工事の対象海域でボーリング調査を試みた際、住民団体に妨害され、今後も同様のことが起きる可能性が高いとして2022年10月、予防を求めて提訴した。一方、島民の会側は中電に妨害予防請求権はないとして請求棄却を求めていた。

祝島の人の闘い この判決を不服とし、7月14日第1回控訴審



8.6 新聞意見広告に賛同してくださった皆さんからのメッセージ

- 宗本哲司 私の安全保障は、理解しあうこと
寺西量三 戦争、世界中どうして戦争が増えるのか
平田悦子 軍事費の増額「0」でよい。
井上聖文・井上由美子 武器で平和は実現できない。
憲法9条こそ平和の実現の指針
- 石原清美 米・イスラエルのイラン攻撃、武器輸出反対
今井千代美 簡単に戦争がはじまり、いつも犠牲になるのは
市民、命は一つ、皆が命を大切にしてほしい、
戦争にだけはならないように
九条改憲反対
- 小川家子 弱い立場の人々をより強く支援していく政治
中山順子 トランプ米大統領の対外政策に大きな不安
小山善生 被ばく者として修学旅行生などに憲法
原郁夫・邦子 9条の大切さを話しています
豊永恵三郎 戦争反対・憲法第九条死守
- 飯降聖子 私の安全保障は、かいわ・まなび
我運太玲子 原爆被害者は原子力発電に全面的に反対
佐藤節男 地球上のすべての国が、憲法第九条を
寺本三省 掲げた平和で戦争をしない国を！
大矢美登里 今こそ憲法第九条の力を日本中が実感
しているはず、決して手離してはならない。
藤井敏勝 人を殺すな！憲法を守れ！人権を守れ！
松本学 平和憲法バンザイ！
河毛樹 戦争をそなえるより外交を！
西原孝夫 武力で平和は守れない！
杉林晴行 戦争は最大の人権侵害
滝和子・滝史郎 子どもたちに命の輝きを！
川本正晴 世界の宝である日本国憲法を守れ！
福井利明 戦争反対
切明泰史 自由と平和を！
松井敬三 ヒロシマの心を世界へ伝えていこう
國貞守男 NO MORE WAR！ WE LOVE PEACE！
占部邦夫 反戦、反核、反差別、憲法を守ろう
下川英二 人殺しや破壊にお金を使うなんて
こんな愚かなことはない
花房良子 戦争はしない！憲法を守ろう！
濱中好子・塚本博美・中川貞子・寺内美百合 戦争やめて！平和な世界を！
- 太田建水 憲法を活かすことは次の世代に時代を
受け継ぐ私たちの必ず守るべき義務
清水正人 人殺しにならないで
山下哲弘・山下権一 反戦平和
近本江吏子 絶対戦争はしない！
藤井郁子 9条は命の力
かつちゃん 憲法9条こそが日本が戦争に巻き込ま
れないためのわたしたちの宝です
- 天野忠雄・天野シマ子 世界平和＝日本国憲法9
北橋世喜子 日本国憲法前文、第9条は命綱。
改憲は絶対反対！
- 小澤彰一・小澤敬子 場当たり的高市政権に、大切な
憲法を変えられてたまるか！
美谷島真澄・美保 憲法の平和主義、9条を守りぬこう
久世裕子 憲法9条を愛し、慈しみ、自然に存続し、
私たちを生かして活々存在！
- 畑真理子 未来を生きる子どもたちを戦場に送るな！
鈴木哲朗 護憲
宮野誠司 9条を改憲して今より平和になるとは
思えない。戦争に近づくだけだ。
- 河内研一・河内妙子 語り継ごう九条の志。手渡そう
平和な地球。未来を生きる人々に。
土井律紀・土井尚美 憲法守れ！9条改憲、緊急事態
条項新設は許さない
- 山下雄生 変えるべきは憲法ではない
内藤博子 今こそ非暴力、平和主義を世界へ！
赤羽佳世子 戦争放棄を世界へ！未来へ！
小山高澄・小山貴子 本年も原水禁大会参加します
政府も米国に追随せず核禁条約に参加すべきです
- 渡辺澄江 戦争は絶対だめ！
金井英樹 反戦、非戦、不戦、そして否戦と反「改憲」
小松美城子・克己 日本国憲法は平和憲法 改憲反対！
越智タエ子 憲法9条は日本の宝、
戦争放棄の精神を守りぬこう
- 橋本雅文・橋本潤子「武器としての非暴力」の1つとして
浅川保 今こそ日本現代史の本格的学習を
石黒弘基・裕子 現極右政権に改憲させてはならない
蓮岡鉄雄 改憲、絶対阻止！
寺本三省 「九条」は世界にとって宝！
どんな国も持つべき！
佐々木あけみ 高市暴走政権ストップ！
改憲・原発きっぱりノー！
- 柴田厚夫・柴田早智子 私たちは、憲法第99条を掲げ
国会議員に憲法第9条を順守させよう
斎藤義夫 トランプのいうことより
物価高に苦しむ国民の声を聞け
新垣盛順 護憲反安保、反戦平和、戦争は絶対悪
高木伸子・高木純吾 命の尊さがこんなにシリアスにリア
ルに感じられる時が来るとは思っていなかった
宮崎優子 一人一人が大切にされる社会を
石井喬 治安維持法体制の再現を非常に恐れています
高嶋伸欣・道 九条は世界平和実現の原点。平和でな
ければ人権も民主主義も保てません。
- 九条の会山県 非武装、戦争放棄
原田優子 世界に平和をもたらすのは、
トランプでなく憲法9条
白井操 戦争につながることはしないと覚悟したはず
マッキー 争いごとがなくおだやかにすごせる。
これが1番の願い。
石井喜美代 為政者が第一になすべき事、それは争
いを避け生活者のために平和を護りぬくこと
光延典子 日本国憲法改憲絶対反対、戦争の放
小田弘平 日本国憲法を守る
渡辺安人・渡辺裕 戦争に加担することは絶対に反対
浅賀きみ江 戦争させない 殺させない9条を変えない
徳山康子 今こそ憲法九条を守りたい、改憲絶対反対
武田悦子 高市こわい、みんなどうしちゃった
若林健一・若林佐姫子 マイナーポータルと国家情報会議
セットで国民管理を狙う企て阻止
桜井邦彦 今こそ平和憲法の出番です



名越祥子	軍拡・改憲反対！ 世界に誇れる憲法9条と現憲法を守る	森 清	戦争しないさせない、権力者を拘束する 憲法を変えてはなりません
藤田欣弥	戦争はしてはならない、させてはならない	宗近弘武	殺す・殺されるが戦争。殺しはいかな る事態でも大罪を！世界の常識に！
秋山昌毅	日米安保と自衛隊は亡国の根源	岡田知子	高市首相の改憲の動きは絶対に許せない！
高桑次郎	今こそ日本国憲法を護りたい	加藤雅樹	戦争は絶対にしない
中山誠一	政府は憲法を守れ、私たちは憲法を護る	板橋一彦・淑子	憲法9条改悪反対
吉野典子	権力者は自分が戦場に行かないから 平気で戦争を始めることができる	渡辺智男	核兵器禁止条約日本こそ批准を
吾妻真起	大切な日本国憲法を改悪しないでほしい	三原憲法朗読会	「強い日本」はごめんだ。穏やかに諸国 と友好関係を結ぶ日本がいい。
石黒康二	戦争をしない国づくりと戦争のない 世界づくりに尽力する日本を 憲法改正大反対！9条守れ！	小野田雄二	憲法改悪に反対
丸森秀子	日本国憲法9条を体現する国に！	鈴木義広	憲法違反の政権は容認できません
山口哲	戦争は絶対にしてはいけない！	平松泰典	平和と民主主義 何よりも人間として
小林和之	病弱で兵隊検査も受けられない奴は非国民 と虐められた。新しい憲法を生きて守りぬく。	奥下厚子	いま世界に力を見せている「九条」大切に大切に 共感と対話を
原田弘一	憲法を守ることは国民を守ること	大濱冬樹	米国に隷属するのはやめようよ
小野寺修子	戦争で人の歴史を終わらせてはいけない	斉藤弘子	人を殺す政府はいらない
磯貝佳子	戦争は国家の犯罪行為だ！	柳つとむ	平和日本第一。軍事で金儲けをするす べての政党を倒す。政治家の墮落”国会革命” 大掃除
超保守的なケンジジイ	憲法が命を守る	荒井哲夫	憲法9条は日本の宝
宮本哲男・宮本純子	戦争をしない国へ、させない国へ	渡辺清文	国会における年内の改憲発議がきになる。
宮成順郎	憲法の理念に近づく政治を望みます	古橋雅夫	手をつなぎ 心を合わせ、声を出し、 平和を作ろう 未来のために
能川ちづ子	戦時体制に入ってしまった今こそ反戦 平和を！高市政権を許さない	佐橋京四郎・弥生	子どもたちに9条の大切さを語り続けよう 核兵器、侵略戦争は国際法違反です
石井隆	平和外交を！	明田暁子	世界は第9条に尊敬の念を抱いている
青木克明	人類の宝、9条を守り世界に広めよう	原田禎忠	憲法、国際条約で戦争を止めよう
藤田一	殺しあう世の中にならないように	増沢一春	憲法9条は日本の宝、絶対守りぬこう
向井康子	子や孫の時代、ずっと末永く平和で。	杉本麗次	第9条こそ国宝、誰もさわらな！
水谷完治	憲法9条で世界平和を目指しましょう	中元寺俊幸	戦争できない方法を発見した人にノーベル賞を
赤松竜・江口直美	天空から杉山千佐子さんが檄を とばしてくれています	高野美枝子	9条で戦争は地球上から「ナイン」です
川崎一儀	ノーモア戦争	大島博	九条は永久なり
鈴木茂久	広島長崎を忘れるな、九条をいかし守ろう	中野護	戦争だけは絶対にダメ。まずは話し合い
浅井栄子	81年間戦争をせず誰一人殺していない。 この国は誇り。九条を手離してはいけない！	押部禎一	戦争反対
岡田光生	戦争は殺人と破壊、全ての戦争を止めよう！	牧野正博	高市トランプ会談で憲法9条が 日本の参戦を許さなかったことが証明された
清水岳夫	戦争をするな日本	竹内正彦	主権在民、基本的人権の尊重、戦争放棄
鈴木美香	憲法は国民ではなく政治家をしばるもの	秋山良一・秋山映子	世界人類が平和でありますように
林正廣・悦子	第九条はホントウは第一条であるべきだ	大谷弘子	未来に生きる子どもたちに戦争、原発 のない社会を
田淵英久	憲法改悪は絶対ダメ！	榎本みつ枝	殺すな殺されるな
新里倫子	平和憲法を守ろう！武器輸出反対！	齋藤洵子	戦争という名の殺人はするな
松原千里	平和憲法を変えようとしている政府の 姿勢に危機感をいただきます	大津留求	戦争はいやだ！9条を守ろう
中川了之・中川裕之・中川いのり	子どもの笑顔があふれる社会としていきたい	加藤君子	第9条を世界に
原田公明	トランプにこびへつらう高市さん、あなたは どこの国の総理ですか、情けなく恥ずかしい	山上敏秋	あきらめない！
増本淑子	ストップ改憲	山本健慈・市原悟子	暴力絶対反対。
上野勝	軍備全廃と人間平等、 世界の子どもの命を守ろう	二階堂まり	戦争は暴力の応酬の最たるもの。
富矢伸史	第9条絶対厳守。改憲してはならない！	辻田丞治・浩子	戦争の放棄、人権、民主主義
野尻賢二	再び過ちを犯すな！	伊勢敏彦	非核三原則堅持、 世界の核廃絶運動のイニシアティブを！
堤八郎	目覚めよ主権者	内海渾子	改憲反対、平和憲法を守ろう
日笠修宏	戦争に正義はない、殺すなかれ！	伊勢敏彦	戦争は誰も幸せにしない。9条はみんなのだから
横井妙子・室永敦己・初己	戦争よりいのちが大切、 お花畑が一番です	風間昭彦・カザマケイコ	憲法守れ！改憲反対！
和田里真弓	NO WAR! 子どもたちの未来を守ろう	石井奈美	今のままでは本当に日本は戦争になる！
		市場恵子	武力暴力で平和は実現できません
		堅田晃英	
		島元智	
		小河義伸	



写真提供 藤元さん

憲法シール投票

5月2日 宮島口 (九条の会・はつがいち)

憲法変えて戦争する国に 4
憲法を守り戦争しない 122

5月3日 広島本通 (ヒロシマ女たちの会)

憲法変えて戦争する国に 5
憲法守って平和を守る 166
わからない 17

…街角で憲法を語る…



写真提供 岡原美知子さん

活動報告 (第九条の会ヒロシマほか 関連団体、実行委員会含む)

- 4月 1日(水) 日本軍性奴隷制問題解決のための水曜街頭行動 (広島本通り青山前) 12時～
- 3日(金) ヒロシマ総がかり「3の日」行動 本通り電停前(青山) 17時半～
ヒロシマ女たちの会相談会 18時半～ サイゼリア
- 5日(日) 政木五郎さんの「九条の碑」お披露目会 11時～ 飯室
- 6日(月) 第九条の会ヒロシマ会報128号発送 広島国際会議場3F研修室 13時～
- 7日(火) アメリカ・イスラエルによるイラン攻撃に抗議するヒロシマ緊急アクション 原爆ドーム前 写真 中興さん
- 8日(水) NO WAR! 憲法変えるな! ウォンツ・青山前、福山、三原、呉など (165開催都市 47都道府県)
- 11日(土) 「なぜ差別禁止条例が必要なのか」学習会 広島弁護士会館 14時～
雲南市に火薬庫・訓練場(陸自出雲駐屯地)問題を考える 松江市民会館
- 12日(日) 「ヒロシマ、ABC兵器をめぐって一原爆被害と毒ガス加害」原爆資料館BF会議室1 13時半～
- 19日(日) NO WAR! 憲法変えるな! 4・19ウォンツ・青山前 (ほか福山、三原、呉など)
「慰安婦」ネットひろしま総会&記念集会『黒川の女たち』上映とトーク 広島市市民交流プラザ6F13時
- 22日(水) 第九条の会ヒロシマ世話人会① 広島国際会議場3F研修室 14時～
- 23日(木) ヘイトにNO! 全国キャンペーン広島集会 「誰一人取り残されることのない社会を!」広島弁護士会館 18時
- 24日(金) チェルノブイリ原発事故から40年 中電前行動と申入れ 12時～ 中国電力本社前
- 27日(月) HANWAキャンドル集会「法の支配・憲法を尊重せよ 核絶対否定 戦争反対」原爆ドーム前 17時
4・28「主権回復の日」を問う広島集会 湯浅一郎さん ゆいぼーと 4階研修室1 18時半～
- 5月 2日(土) 憲法シール投票「九条を変えて戦争に参加する? 九条を守って戦争しない?」14時～ 宮島口ロータリー
平和記念公園とハワイ・パールハーバーとの姉妹公園協定を考えるパネル展 旧日銀広島支店 ～7日
平和記念公園とパールハーバー姉妹公園協定を考える 広島高校生平和ゼミナール活動報告と展示
- 3日(日) 憲法シール投票「九条を変えて 戦争に参加する? 九条を守って 戦争しない?」11時半～ 元安橋
ヒロシマ総がかり憲法集会 飯島滋明講演 歌と音楽 広島県民文化センター 13時半～
- 4日(月) 平和記念公園とパールハーバー姉妹公園協定「広島市の平和行政を問う」難波健治さん 宮崎園子さん 岸直人さん
- 5日(火) 平和記念公園とパールハーバー姉妹公園協定を考える 藤川晴美さん(朗読の会)「憲法の本」など
- 6日(水) 平和記念公園とパールハーバー姉妹公園協定を考える 瀬戸麻由さん「ピースボートからグローバルヒバクシャへ」
日本軍性奴隷制問題解決のための水曜街頭行動(広島本通り青山前) 12時～
- 10日(日) ミャンマー水かけ祭り 広島ゲートパーク
- 13日(水) 第九条の会ヒロシマ世話人会② 広島国際会議場3F研修室 14時～
- 14日(木) 本郷産廃裁判控訴審 13:30 判決言い渡し
- 15日(金) 日東電工 街頭宣伝 広島本通り電停前(青山側) 14時～
- 17日(日) 日鉄呉跡地問題を考える会2周年記念集会と総会 椿会館 13時～
「本名」で教壇に立つ一公立学校外国籍教員の現状一 広島市留学生会館2階ホール 写真 渡田正弘さん
- 19日(火) NO WAR! 憲法変えるな! 原爆ドーム前 18時～
- 23日(土) 自衛隊演習場「矢白別-土地を守り抜いた人々」広島市市民交流プラザ
- 30日(土) 教科書ネット総会・記念講演会 講演:吉川徹忍さん 広島弁護士会館
- 31日(日) 「ピースアクション・イン・舞鶴」ヒューマンチェーンほか
- 6月 2日(火) 第九条の会ヒロシマ会報129号発送 13時～ 広島国際会議場3F研修室



写真 中興さん



写真 渡田正弘さん



写真提供 久野成章さん

お知らせ

◆「チェルノブイリその後の世界」上映・コリン・コバヤシ講演会
6月6日(土) 広島弁護士会館2F会議室 14時～
共催:核兵器廃絶をめざすヒロシマの会 自由法曹団広島支部
上関原発を止めよう!広島ネットワーク さよなら原
発ヒロシマの会 ジャーナリスト会議広島支部 広島
マスコミ九条の会 第九条の会ヒロシマ
連絡先:070-5052-6580(藤井)

◆核兵器廃絶をめざすヒロシマの会 記念講演会&総会
「岐路を迎える日本の非核—3原則国是化の史的検証から」
6月7日(日) 15:00～17:00(13時半から HANWA 総会)
広島弁護士会館2階会議室
参加費・資料代 1000円(学生・障がい者無料)
講師:太田昌克 共同通信編集委員兼論説委員
主催:核兵器廃絶をめざすヒロシマの会(HANWA)
連絡先:090 9060 1809(藤元)

◆憲法学習会「知っていますか?廿日市の救護活動」
6月13日(土) 14時～ 廿日市市民活動センター
内容:「原爆と廿日市 朗読とお話の会」 資料代:500円
・「熱い波=被爆者救護活動の記録=」より朗読
・中学生制作の被爆の記憶と「作品 いのちの叫び」修復
朗読と話:網本えり子さん、中本敬章さん(WOODPRO 社長)
主催:九条の会・はつかいち 連絡先:090-3373-5083(新田)

◆原爆ドーム世界遺産化に尽力した外交官の熱き想い
6月14日(日) 10:00～12:00 ひと・まちプラザ6階
参加費・資料代 無料 カンパ歓迎
講師・報告など 久枝譲治さん 金子哲夫さん
主催 ヒロシマを語る会
共催 ANT Hiroshima 第九条の会ヒロシマ
韓国の原爆被害者を救援する市民の会・広島支部
連絡先 082-822-0766(豊永)

◆「6.23 沖縄慰霊の日」を考えるつどい
6月21日(日) 14時～16時 ハチドリ舎
参加費:ドリンク代+カンパ
内容:①広島と沖縄をむすぶ取り組みの紹介
②広島・沖縄の戦争体験を学ぶ若い世代からの発題
*6月23日(火) 18時 原爆ドーム対岸で三線演奏、歌
主催:広島・沖縄をむすぶつどい
共催:広島と沖縄をむすぶドゥシグワー
連絡先:090-6432-5054(多賀)



ドゥシグワーとは
仲間・同志のこと

◆広島外キ連学習会2026 滑川和也弁護士講演
「入管法改定に伴う滞日外国人の生活変化の実情」
7月12日(日) 14時～ 在日大韓基督教教会広島教会
資料代:500円(対面、録画配信 要申し込み)
問い合わせ先:082-261-2005(月下)

◆8・6 ヒロシマ平和へのつどい 2026
「捨てた筈の武器を ほんとうに 捨てねばならない」
8月5日(水)17:00～19:00 資料代:1000円
広島市まちづくり市民交流プラザ研修室 ABC
記念講演 各地から 広島、熊本、ほか
関連行事 8月6日(木)の行動
7:00 グラウンドゼロのつどい ピースプロムナード(ドーム北)
8:15 追悼のダイイン
8:30 8・6 反戦・反原子力・反ジェノサイド広島デモ
9:15 脱原発座り込み行動(中国電力本社前)～10時
主催:8・6 ヒロシマ平和へのつどい 2026 実行委員会
連絡先:090-4740-4608(久野) 86tudoir.hiroshima@gmail.com

◆中国電力株主総会 & 中電本社前抗議行動

6月25日(水曜日)9時～13時 中国電力本社前
共催:上関原発止めよう!広島ネットワーク、
脱原発へ!中電(中国電力)株主行動の会
連絡先=渡田(090 6835 8391)

祝島からも抗議
行動に参加

◆結婚改姓のことをボソボソと話してみませんか

6月27日(土) 広島井口公民館 13:30～15:30
*要申込 082-277-9258(井口公民館)
主催:同性別姓広島、ジェンダーを考える広島県有志

◆「ノーニュークス・アジアフォーラム in フィリピン」参加報告

7月11日(土) 14:00～16:30 広島国際会議場 3F 3
講師:渡田正弘(「グローバリゼーションを問う広島ネットワー
ク」事務局長) 参加費:500円(学生無料)
主催:グローバリゼーションを問う広島ネットワーク
連絡先:090-6835-8391(渡田)

◆祝島島民の会への中電による妨害予防請求裁判控訴審

7月14日(火曜日)11時 広島高裁 302号法廷
*裁判前に裁判所前進行とミニ集会 10時頃予定
連絡先:090-7548-6558(溝田)



◆第9回共生フォーラム「多文化共生社会の内実を問う
—マイノリティの多様性を可視化する—」

7月26日(日) 14時00分～ 広島市留学生会館2階
参加資料代 1000円(正会員・学生無料)
講師:孫片田晶(ソノカタダアキ)さん(立命館大学教員)
主催:NPO 法人共生フォーラムひろしま
連絡先:NPO 法人事務局 07037719235 kyosei.fh@gmail.com

◆みんなではね返そう! 岩国基地の拡張・強化

8月22日(土) 広島市まちづくり市民交流プラザ 14時
講師:西浦昭英さん(沖縄・名護市在住) 資料代:800円
主催:岩国基地の拡張・強化に反対する広島県住民の会
連絡先:090-3373-5083(新田)

事務局から

今こそ! 8.6 新聞意見広告 26 に応援とご支援を!

- ・高市政権への危機意識は高く 8.6 意見広告掲載のために多くの応援の声が聞こえます。戦争するな! 憲法改悪絶対反対! の声を大きく上げたい。賛同・呼びかけをよろしくお願いします。
- ・今号も会員さん+賛同者にも送らせていただいています。メッセージ・お名前はあなたの意思表示! 是非お寄せください。
- ・封筒のタックシールに、皆さんの入金状況を記載しています。2026の賛同金、年会費など、間違いがあれば、遠慮なくご連絡ください。郵便事情・時間差はご容赦くださいますように。

後記

- ・5/19 原爆ドーム前デモの若い人の感想です。「おそろおそろ参加した人や静かに立っている人の気持ちわかる」「『バイトじゃないよ』と書いた紙を持っていて印象的」「力強いコールやスピーチ、様々な参加者への対応が迅速でかっこいい」…
- ・5.14 本郷産廃控訴審判決、訳が分からない。環境省には基準はある。けど、行政はそれをキチっと守らなくてもいい、なんて原告の暮らしを壊しているのに、裁判所がそれを言う?
- ・入稿直前にひどいニュース。「辺野古学習を考え方により政治活動を禁じる教育基本法 14条に反する」と政府が教育現場に介入するなんて背筋が寒くなる。国は冷静さを欠く失態。